

笠置町生涯活躍の まちづくり推進基本構想

平成 30 年 3 月

笠置町

1. 概況と課題認識

(1) 人口ビジョンと総合戦略

- 「笠置町人口ビジョン（平成 28 年 1 月）」において、2015 年の町人口 1,392 人が 2030 年に 1,000 人を割って 977 人になると推計しており、さらなる高齢化と出生数の超低迷が伴うことを見込んでいます。
- 町では、人口減少の抑制を図りつつ持続可能性を守るまちづくりを進めていくため、2040 年の人口目標を 888 人と設定して「笠置町まち・ひと・しごと創生戦略（平成 28 年 1 月）」を策定しました。
- 同戦略の展開と協調する上でも、本町における日常生活や福祉・医療等の社会基盤の維持を喫緊の課題として捉える中で、笠置町人口ビジョンに「人口減少期の町の活性化には一人でも多くのアクティブシニアの活躍が不可欠」と明記しています。
- アクティブシニアとは、知恵やノウハウを豊富に有し、健康な老後に、これを生かして積極的に社会参加をしようとするシニア層のことを云いますが、そうした町外のアクティブシニアを呼び込み、町内外の人と人のふれあいと交流の中に、これからの笠置の活力を見いだしていこうとするものです。

- 「人口減少社会」とは、「構造的に人口が減り続ける社会」 簡単に人口減少は止まらない。
- 「日本で 2 番目に人口が少ない笠置町」 9 年後の人口は 1,000 人を割り込む見込み。

→
→
→

人口減少期の町の活性化には一人でも多くのアクティブシニアの活躍が不可欠。

(2) 近年の地方創生等の取り組み

- また戦略では、当面の 5 年間の取り組みとして「雇用の創出」「移住・定住の促進と交流の拡大」「結婚・出産・子育ての希望の実現」「持続的・自律的なまちの形成」に係る諸施策を集中して推進することとしており、既に係る取り組みの着実な実行を進めてきています。

<平成 27 年度 地方創生先行型事業>

- 笠置町総合戦略計画策定事業
- 空き家対策推進及び駅周辺と商店街地域の活力再生事業
 - ・ JR 笠置駅及び周辺商店街活性化事業
 - ・ コンテナ設置事業（家具の一時保管庫の設置）
 - ・ JR 笠置駅トイレ改修事業

<平成 28 年度 地方創生加速化交付金事業>

- （広域連携）相楽圏域におけるインバウンド観光事業
 - ・ JR 笠置駅周辺整備 等
- （単独）まちづくり会社による「笠置蘇り物語」
 - ・ まちづくり会社の創設
 - ・ 笠置駅複合施設改修
 - ・ 特産品開発（はちみつ、ケーキ、ピザ等）
 - ・ 空き家を利用したサテライト・オフィスの整備
 - ・ 空き家を利用した移住交流センター・お試し住宅整備
 - ・ まちづくりプロモーション映像の制作（笠置 ROCK!）

<平成 28 年度 地方創生推進交付金事業>

- 笠置コミュニティ創生事業（1 年目）
 - ・ 送迎サービス町内需要・移送ルート調査
 - ・ 空き家を利用した農家レストラン改修設計調査
 - ・ 空き家を利用したゲストハウス対象物件ストック調査
 - ・ 遊休農地再生による特産品「笠置三尺キュウリ」復活栽培研究
- 失われた町の宝復活による笠置蘇り物語（1 年目）
 - ・ 木津川河川敷でのスポーツアクティビティの可能性を探る利用調査、河川敷開発計画の検討
 - ・ 笠置駅付近の街並み修景デザイン計画検討・街並み統一サインの制作
 - ・ 春日大社での広域観光連携事業の実施、FM 放送による発信
 - ・ 柳生の里ー笠置山を結ぶ観光ルート確立のための、モニターツアーの実施
 - ・ 日本炭酸ミネラル水の地であることを活かした炭酸泉の水質・湧出量調査の実施、ハイキングコース等の設置検討

<平成 29 年度の地方創生交付金・地方創生拠点整備交付金事業>

- （仮称）かさぎ紡ぎの館整備事業
 - ・ 多目的ホールや調理室を設けた「多世代交流施設」の新築
- 町営温泉リニューアルによる外貨獲得事業・効果促進事業
 - ・ 笠置温泉いこいの館におけるサテライト・オフィス設置、コミュニティ機能強化
- アクティブシニアが活躍する笠置 CCRC 共和国プロジェクト（1 年目）
 - ・ 生涯活躍のまちづくり推進基本構想の策定
 - ・ アクティブシニアボードの立ち上げ
- 失われた町の宝復活による笠置蘇り物語（2 年目）
 - ・ 木津川河川敷スポーツアクティビティ体験企画の開発とモデル事業の実施（海外学生・海外旅行業者・国内一般客を対象にボルタリング、カヌー、キャンプ（バーベキュー）を実施）
 - ・ 海外学生（留学生）、海外旅行業者を招き、笠置体験ツアーを実施
 - ・ 外国人向けに観光資源や体験プログラム、宿泊、飲食などを紹介する多言語ホームページの作成
 - ・ スマートフォンで使える町内音声案内の制作
 - ・ 空き店舗を活用した「チャレンジショップ」の開催
 - ・ まちの特産品の開発
- 笠置コミュニティ創生事業（2 年目）
 - ・ 温泉を拠点とした町内のデマンド方式による移送サービスの実証実験
 - ・ まちの食材を使ったご当地グルメの開発

(3) 生涯活躍のまちづくり

- 国の示す「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想」を踏まえて、京都府では「誰もが生涯にわたり、共に安心していきいきと暮らせる”共生型社会”を実現するため、高齢者共生型まちづくり（京都版 CCRC）構想」を進めています。
- 本構想は、これら国・府の構想を踏まえた「生涯活躍のまち（笠置版 CCRC）構想」となるものであり、町の立地特性や社会資源の現状、まちづくりの趨勢を考慮して策定したものです。

日本版 CCRC 構想の骨格的內容	笠置版 CCRC 構想のポイント
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中高年者の希望に応じた住み替えの支援 2. 「健康でアクティブな生活」の実現 3. 地域の多世代の住民との協働 4. 「継続的なケア」の確保 5. 地域包括ケアシステムとの連携 	<p><与条件の違い></p> <p><u>「移住」「医療・福祉需要の増大」等への対応を前提としなくてもよいため、生涯活躍のまちづくりが進めやすい！</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 京阪神大都市圏・中京圏から通える距離 → 移住・定住をしなくても、頻繁な来町や一時居住でも、笠置で活躍してもらえる。 ◎ 医療・介護に係る社会資源は「堅持」が基本 → 社会資源の町内での整備・充実を図る上で、移住者対応を前提としなくてよい（都市部の社会資源が対応できる）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康時から地方居住を選択 ・ 仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加する高齢期の生活 ・ 地域にとけ込んで多世代と協働 	<p><チャレンジの方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 都市生活者等の高齢期の活躍の場としての価値を発掘・創出し、笠置町への貢献を求めるタウンプロモーションへ。 ◎ 「地域にとけ込む」を超えて「町民を新たな交流の輪に連れ出す」、いわば「おせっかい協働」へ。

※ CCRC (Continuing Care Retirement Community)

※ 日本版 CCRC 構想；「東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指す」もの。

2. 基本構想

(1) 将来像

求める！迎える！交わる！

アクティブシニア
新しい仲間とともにチャレンジする、笠置創生

笠置町に暮らす私たちの毎日の生活は、石と水と木々の霊性が息づく自然に包まれ、歴史の厚みに支えられて、しっかりと私たちの心に馴染んでいます。

このかけがえのない笠置のまちを元気にしていくために、どんなことを始めていけばいいでしょうか。

現在 1,400 人ほどのまちに 50 人ほどの子どもがいます。よく知っている子どもはどのくらいですか。まずは、この子どもを笠置の宝として守り育てる力を最優先で集めないといけません。

高齢の人は増えて町人口の多くを占めていくのに、その生活の大変さを支える力は十分とはいえない。これも、早く対応を図っていかなくてはなりません。

他方で、笠置町と行き来が難しくない距離に奈良や大阪、京都といった大きな都市があって、そこには今日、アクティブシニアといわれる人たちが「第二の人生」のための新しい活躍の場を探しています。

私たちは、こうした人たちに対して「笠置のまちの仲間となっ
てほしい」と求め、地域の暮らしの中に迎えて、たくさん心を交わしながら、まちのいろいろな課題に向き合う知恵と力を貸してもらいたいと思います。

私たちが守りたい・つなぎたい・大切にしたいものを、同じように守り・つなぎ・大切にしながら、私たちと一緒に元気に活躍してもらうことで、笠置のまち全体の元気をつくり、笠置創生を図っていきたい。この基本構想は、そうした思いから策定したものであり、この趣旨を上記の標語で表わし、将来像として描きます。

(2) 基本方針

- 「求める！迎える！交わる！」のキーワードを含めて描いた将来像を実現していくための基本的な方針として、次の3つを示します。

方針1 求める

- ・ 私たちは、守りたい・つなぎたい・大切にしたい価値を共有し、その上で仲間を求める必要がある「困っていること」「手伝ってほしいこと」を丁寧に見つけ出して、これを広く発信するタウンプロモーションを展開することで、笠置町で活躍してくれるアクティブシニアを求めています。

以下のようなことを、もっと具体的に求めています。

[知恵と力を貸してほしい]

- ・ 様々な地域課題に対応するため、自ら活動する意欲と能力、また、経験と人脈等を有した人に活躍・貢献してほしい。

[人の繋がりを導いてほしい]

- ・ 人と人を繋いで、交流人口・共感人口・関係人口を笠置町に導く「ポータル（玄関口）」となって、町の活性化に寄与してほしい。

[できれば笠置で暮らしてほしい]

- ・ 笠置町の歴史・文化・自然の魅力に共感し、このまちを新たな住まい・活躍の場としてほしい。そして、できることなら町に引っ越してきて、一緒にまちを元気にする仲間になってほしい。

方針2 迎える

- ・ 私たちは、私たちが守り・つなぎ・大切にしている価値とともに共有し、「手伝おう」「貢献しよう」と意気に感じて、笠置の地をフィールドとして活躍してくれる人を求めています。
- ・ そのように新しい仲間を求めるのですから、新しい仲間を受け入れる環境づくりについては、これまで以上に積極的に進めています。

方針3 交わる

- ・ 新しい仲間が笠置に来てくれることで、「新しいもの」「今までと異なるもの」とのふれあい・交流が生まれます。それは、ひよっとすると最初はいろんな人と人の間に違和感や居心地の悪さといったものを生じさせてしまうかもしれません。
- ・ 私たちは、そうしたものが消し飛んでしまうくらいに、たくさんのふれあい・交流を巻き起こして、まち全体が元気になる仕掛けをつくって、新しい仲間との交わりをみんなが一緒に楽しむことができるようにしていきます。

3. 構想の推進（実践計画へのつなぎ）

（1）アクティブシニアボード（ASB）

- この構想の推進のため、構想内容の検討と並行して「笠置アクティブシニアボード」を設置し、生涯活躍のまちづくりのチャレンジをスタートさせています。
- 町外のアクティブシニアに笠置町に積極的に関わってもらえる機会をつくって、その知恵やノウハウを生かしながら、町内で住民との交流を巻き起こしながら活躍してもらえるよう立ち上げたものです。
- 「文化・芸術活動」「食や観光などの魅力の開発活動」「人材育成、教育、人づくり活動」「まちづくりや情報発信活動」など、アクティブシニアならではの、様々な面からの活躍を期待しているところです。
- 次項のプロアクションカフェの成果も引き継ぎつつ、ASB メンバーそれぞれの事業発案・実践が活発に展開されるよう、平成30年度以降についてもASBの継続的な運営を図っていきます。

（2）プロアクションカフェ（PAC）

- 笠置町では、ASBからの取り組み提案と、町内で以前から検討を進めている提案を同じ俎上に上げて、それらの実現性を高め、かつ、取り組みに携わる仲間づくりを図る目的で、PACの手法による事業提案会を開催しました。
- 参加者は26人（ASBメンバー12人、笠置町生涯活躍のまちづくり推進基本構想策定協議会委員4人、町民有志8人、行政職員2人）で、異なる立場から互いに触発しあう活発な対話がなされたところです（提案内容等については、資料編参照）
- 実施概要は、以下の通りです。



標題： 笠置町生涯活躍のまちづくりに向けたプロアクションカフェ
～ まちを元気にするチャレンジについて、一緒に考えよう！ ～

日時： 平成30年3月20日 14:00～17:00

場所： 笠置町産業振興会館2階

【プロアクションカフェとは】

- 様々な人の知恵を集めて具体的な行動を生み出していこうとするもので、ワールドカフェの対話の手法がアレンジされたものです。
- ワールドカフェでは、1テーブルあたり4人が座り、「20分間話し、それぞれ別のテーブルに移動する」というラウンドを3ラウンド行って、最後にフロア全体での意見共有を図ります。
- プロアクションカフェでは、各テーブルに提案者（コーラー）1名と貢献者（コントリビューター）3名が座り、提案者が移動しない点が異なります。

(3) 施策提案

- 笠置町のまちづくりの趨勢と PAC の成果などを踏まえ、この基本構想に基づいて取り組むべき施策の領域を、3つの方針に即して以下に整理します。

	住民の活動	アクティブシニアの活動	京都府他の活動
「求める」方策	○ 「守りたい」「手伝ってほしい」を整理し共有する。 ☆ 「笠置っ子」のためを重視する。	・ 町民の「守りたい」「手伝ってほしい」を知る。 ○ 町の思いと自らの活動との整合を図る。	・ 笠置情報を都市住民に展開する。 ・ 笠置のまちづくりを途切れることなく支援する。
「迎える」方策	○ 空き家や観光資源、町有林などの利用勝手の向上を図る。	○ 笠置町での活動展開に提供してほしいものを整理し具体的に求める。	
「交わる」方策	○ 準備しすぎず、まずは交流する機会をつくり、積極的に関わる。	○ 「町民を巻き込む」「成果を町政に還元できる」を前提として事業展開を図る。	
備考	○ まちづくり会社を最大活用する。	○ ASB の継続的な活動のなかで取り組む。	○ 町行政に対する、人的支援を強化する。

○ これを踏まえて、実践計画につなげる施策の例を以下の通りとします。

施策例1 「手伝ってほしいこと 50 選」の策定（町民）

- ・ 「私たちがアクティブシニアに望むこと」について、町民間の対話を重ねて、50の願いを取りまとめます。
- ・ ここには「私たちが大切にしたいこと」についても併せて掲載します。

施策例2 まちの資源の管理と活用マニュアルの整備（まち会社）

- ・ まちづくり会社の事業として、生涯活躍のまちづくりに資するまちの資源に係る情報を整理・集約します。
- ・ また、まちの資源等の利活用の際に、まちづくり会社の収益が生まれ、町内での経済循環が起こる仕組みを整備します（無体財産権や寄附・ふるさと納税の活用など）

施策例3 まちづくり会社の積極活用（町全体）

- ・ 笠置町における事業提案とその実施に関して、まちづくり会社の名称・立場を町全体で大いに活用することで、まちづくり会社を地域の中核企業としてシニアが利用しやすい会社として育成していくとともに、対外的な信用度や発信力を高めていきます。

施策例4 タウンプロモーションの展開（役場）

- ・ 気心知り合う関係の広がり（関係人口の増加）を目的として、交流事業を軸としたタウンプロモーションを計画的に展開し、「手伝ってほしいこと 50 選」を活用したアクティブシニア（新しい仲間）の発掘に努めます。

施策例5 ASB モデル事業の推進（ASB・まち会社）

- ・ ASB のプロジェクトやアクション等については、その窓口を「笠置まちづくり会社」が担うこととし、PAC で提案された ASB からの取り組み提案について、すぐに実行可能なものから具体的な展開が図られるよう、支援します。
- ・ それぞれのプロジェクト等では、まちづくり会社の収益にもつながるよう事業を組み立て、継続・拡大が可能な事業モデルの構築を図るものとします。
- ・ いこいの館・つむぎてらす周辺地区についての CCRC の拠点としての整備を進めることで、ASB 等の事業展開を通じた、町内のシニア層のアクティブ化が図られることを重視します。
- ・ まちづくり会社をはじめ、関係者による支援体制を組んで、アクティブシニアが笠置で活動しやすい環境をつくり、関係人口の濃密さが、笠置町にとっての自由で斬新な活力となるよう一層工夫していきます。

資料編

- 笠置町生涯活躍のまちづくり推進基本構想策定協議会
- 笠置町アクティブシニアボード
- 笠置町生涯活躍のまちづくりに向けたプロアクションカフェ

○ 笠置町生涯活躍のまちづくり推進基本構想策定協議会

笠置町生涯活躍のまちづくり推進基本構想策定協議会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 町の最大の課題である人口減少・高齢化と経済の弱体化を克服するため、本町の歴史・文化・自然の魅力に共感し、地域課題の解決に貢献する意欲のあるアクティブシニアの移住を積極的に受け入れ、多様な主体との対話と交流を通じ、自らの自己実現と合わせて、町民とともに、地域課題の解決にかかわっていただきたく、その指針として、本基本構想(以下「基本構想」という。)を策定するため、笠置町生涯活躍のまちづくり推進基本構想策定協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、基本構想の策定に関し必要と認められる事項について検討し、その結果を町長に報告する。

(組織)

第3条 協議会は、委員10名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 経済関係者
- (2) 町の関係団体
- (3) 町の特別職または一般職
- (4) 前各号に掲げる者のほか、町長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、町長が委嘱を行った日から第2条に規定する所掌事項の終了の日までとする。

2 委員に欠員が生じた場合は、補欠の委員を置くことができるものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。ただし、最初の委員会は、町長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 協議会において特に必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、保健福祉課において処理する。

附 則

この要綱は、平成30年2月1日から施行する。

< 委員名簿 >

(敬称略)

区 分	関係機関	役職	氏名
学識経験者	京都産業大学 現代社会学部	教授	鈴木 康久
経済関係者	京都銀行 木津支店	支店長	田中 善紀
	京都信用金庫 本店	理事	丹波 寛志
町関係団体	商工会	会長	松井 克夫
	観光笠置	会長	中西 隆夫
	社会福祉協議会	会長	橋本 順夫
	ボランティア運営委員会	委員長	小澤 芳子
	老人クラブ連合会	会長	和田 榮雄
京都府	総務部自治振興課	参事	岡部 武
笠置町 特別職 又は 一般職	副町長	副町長	青柳 良明
	包括支援センター所長	所長	中田 しのぶ

○ 笠置町アクティブシニアボード

笠置アクティブシニアボード設置要項

1 設置の目的

笠置町は京都府最南端の相楽郡東部に位置するまちであり、南北朝時代に後醍醐天皇が吉野に逃れる際、一時身を隠した笠置山（笠置寺）は、最盛期には60を超える塔頭が建ち並ぶ真言密教の聖地として、昭和30年代までは、多くの観光客が訪れていた。

現在は、総人口約1,400人と、全国で2番目に少ない町となっている。この、町の最大の課題である人口の減少と相伴う超高齢化、経済の弱体化を克服するため、歴史文化、自然の中の住環境などの強みを活かしながら、自分らしく心豊かな暮らしを送ることができるまち（笠置CCRC）をつくることを目指している。

そのためには、笠置町の有する歴史・文化・自然の魅力に共感し、笠置町で何かを行う意欲のあるアクティブシニアの活動が重要であることから、これを積極的に促進・支援する目的で「笠置アクティブシニアボード」を設置する。

2 事業の内容

笠置町での活動促進、起業、移住等に関心のある各分野の専門家や活動家、指導者等に参加いただき「笠置アクティブシニアボード」を設置し、笠置町における「文化・芸術活動」「食や観光などの魅力の開発活動」「人材育成、教育、人づくり活動」「まちづくりや情報発信活動」などの応援、活動促進、支援、指導・助言、始動などを行う。

3 アクティブシニアボードの概要

- ・ 「笠置アクティブシニアボード」は、10名～20名の「委員」で構成し、笠置町長が委嘱する。
- ・ 活動は当面、平成30年2月から開始し、年度ごとに行う。
- ・ 活動内容は、委員の発意によるもののほか、笠置町民の活動支援など、アクティブシニアの活動促進に繋がるもの、シニア層の移住・定住に繋がるもの、笠置町のまちづくりに繋がるものなど多様な活動を行う。
- ・ 委員には規定による旅費・報償費を支払う。
- ・ 活動に必要な場所の提供は笠置町が行う。
- ・ 活動に必要な経費は予算の範囲内で笠置町が支援する。
- ・ 事業に関して、営利を目的とするものも構わない。

4 事業イメージ

- ・ 笠置町全体を大きな「スクール（笠置大学）」に見立てて、教室や講座、塾や研修、ビジネス起業オフィス、店舗開業、発表会、コンサート、まちづくり活動などを展開する。
- ・ 教室等の展開は、委員発案のものほか、現在町民が活動しているものを活性化させるものも良い。（シニアをアクティブシニア化する）
- ・ 教室等の活動費用は、笠置町の支援のほか、参加者からの参加費、売上など、実施主体によって任意に決めていく。最終的には、「スクール（笠置大学）」としてアクティブシニア町民（笠置CCRC）による自立した運営を行うこととする。

5 委員の役割

- ① 笠置町において、活動してみたい内容、具体的なプラン等の提案
- ② 笠置町において、応援できるスキルやノウハウの提供
- ③ その他笠置町で、実施したい企画などの提案

6 平成 29 年度スケジュール (3 回)

- 2月中旬 (2 回)
 - ・ 委員によるアクティブシニアボードキックオフ会議
 - ・ 笠置町フィールドワーク+ワーキング等
- 3月中旬 (1 回)
 - ・ プロアクションカフェ (アクティブシニアボード委員と笠置町民とのマッチング)
- 4月以降は別途調整

7 本事業の事務処理

笠置町保健福祉課、株式会社地域計画建築研究所 (京都市)

< 委員名簿 >

(敬称略)

氏名	居住地	参考
山村 祥	京都市	画家、モデルオフィス経営
山村 巍	京都市	画家
中西 啓文	京都市	映像プロデューサー、高校講師
森田 誠二	京都市	元在阪テレビ局、プロデューサー
山田 純二	大阪市	元小中校長、短大副学長、華道副家元
若林 奈緒子	京都市	俳優
南 了太	京都市	京都大産学連携
伊吹 学	奈良市	農業会議、元和束町職員
田村 憲一	京都市	商品開発・販路拡大プロデューサー
秋人	京都市	シンガーソングライター、高校講師
高嶋 加代子	木津川	コミュニティエフエムラジオ局
船戸 潤子	京都市	インバウンド文化体験
岸本 孝夫	大津市	日本旅行地方創生部次長京都駐在
村瀬 左由利	木津川市	ケーブルテレビプロデューサー
山本 員輝	京都市	野菜・食材関係企画

笠置町生涯活躍のまちづくりに向けた プロアクションカフェ

～ まちを元気にするチャレンジについて、一緒に考えよう！ ～

日時： 平成 30 年 3 月 20 日（火）
14:00～
於： 笠置町産業福社会館 2 階



（目 的）

- プロアクションカフェを通じて、アクティブシニアボードや住民の取り組み提案を「笠置町生涯活躍のまちづくり基本構想」に掲載するとともに、それを支える行政施策の提案などを含めていきます。

（プロアクションカフェとは）

- 様々な人の知恵を集めて具体的な行動を生み出していこうとするもので、ワールドカフェの対話の手法がアレンジされたものです。
- ワールドカフェでは、1 テーブルあたり 4 人が座り、「20 分間会話し、それぞれ別のテーブルに移動する」というラウンドを 3 ラウンド行って、最後にフロア全体での意見共有を図ります。
- プロアクションカフェでは、各テーブルに提案者（コーラー）1 名と貢献者（コントリビューター）3 名が座り、提案者が移動しない点が異なります。

STEP1： はじめに、提案者がフロア全体に簡単に提案内容を説明します。

STEP2： 提案者 1 人、貢献者 3 人で構成されたテーブルで、意見交換を行います

STEP3： 貢献者 3 人が、それぞれ他の提案者のテーブルに移動して、意見交換を行います。

STEP4： 貢献者 3 人が、それぞれ他の提案者のテーブルに移動して、意見交換を行います。

STEP5： 提案者が、3 ラウンド（各ラウンド 20 分間）の意見交換を通じて得られたことをフロア全体に披露し、フロア全体での意見共有・交換を行います。

笠置町 生涯活躍のまちづくりに向けた プロアクションカフェ

【取り組み提案集】

提案1：移住・定住促進のための、空き家の活用（阪井 敏夫 氏）

提案2：笠置・フレーバー珈琲（田村 憲一 氏）

提案3：笠置町で売れる特産品づくり（藤田 始史 氏）

提案4：インバウンド観光を呼び込もう！（船戸 潤子 氏）

提案5：石フェス（森田 誠二 氏）

提案6：笠置「心」アカデミー（山田 純二 氏）

提案7：笠置の自然で葉っぱ事業（山本 員輝 氏）

提案8：折紙教室（若林 奈緒子 氏）

提案 1	移住・定住促進のための、空き家の活用			
計画 期間	2 年後			
計画 目標	空き家を活用し、5 世帯の移住を受け入れている。			
現況 ・課題 資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内に空き家が増加し、十分に維持管理がなされていない。 ・ 空き家バンクがあるが、登録件数が少なく機能していない。 ・ 一定数の移住希望者があるが、その受け入れができていない。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
半年後	町内の空き家の現状が把握できており、情報集約が図られている。	わたし たち	所有者の意向把握も含めて、空き家の現状を調査し、集約する。	
		役場	空き家特措法等に基づいて、適切な空き家対策を実行する。	
		事業者	地元事業者を中心とした、空き家改修チームを結成する。	
		まちづくり 会社	「風通し屋」など、空き家の維持管理を支援する事業を行う。	
1 年後	空き家バンクにより、5 件の空き家の入居者募集を行っている。	わたし たち	供用できる空き家を確保する。	移住者情報の管理は、まちづくり会社が担う。
		役場	空き家バンクを再整備と積極的な情報発信に努める。移住定住促進住宅の制度を活用する。	
		まちづくり 会社	入居希望と物件間の調整を担い、これ踏まえて情報発信を強化する。	
2 年後	空き家を活用し、5 世帯の移住を受け入れている。	わたし たち	移住者への地域情報の提供と困りごと支援などを行う。	
		事業者	入居者ニーズを踏まえた改修を請負う。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家に手を入れてから貸すのではなくて、現状ママでお試し居住などしてもらうことも有効かもしれない。 			

提案 2	笠置・フレーバー珈琲			
計画 期間	1 年半			
計画 目標	笠置イメージのフレーバー珈琲を開発し、広く販売している。			
現況 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ミームファクトリーで、オーガニック・フレーバー珈琲ビジネスを広く展開しようとしている。 			
資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> 生姜や木材など笠置の産物を香り資源として活かした、あるいは、笠置イメージのビジュアル等を活用した展開に可能性がある。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
6~9 か月後	笠置町の資源調査を終えて、事業展開の方向性を共有できている。	わたし ・町民有志	地域の香り資源やイメージ資源を調査し事業方針について検討・共有する。	生産可能な香り資源（生姜など）や笠置のイメージ資源（自然、石、キャンプ、ボルダリングなど）で調整・ブランド化した、オーガニックのフレーバー珈琲を町内外で販売し、笠置町の認知拡大と物販～イベント～産業の連動展開を図る。
		弊社	自社ブランドのフレーバー珈琲を発売する。	
		役場	精油生産等の事業開始に向けて、補助等の支援策を検討する。	
1 年後	弊社珈琲事業の展開を踏まえて、笠置イメージでの事業展開方針が定まっている。	わたし ・町民有志	精油生産の事業化に向けて、実務レベルの検討を行う。	
		弊社・まちづくり会社	香り・イメージ資源の利用管理、また、販売促進の付帯イベントを行う。	
		役場	関連する新産業の創出や誘致に対して積極策を講じる。	
1 年半 後	笠置イメージのフレーバー珈琲を開発し、広く販売している。	まちづくり会社	各種イベントと協調して販売促進を図り、後継となる物産開発を行う。	
		弊社	全国での事業展開、海外への販路拡大を進める。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> 笠置町を PR するために、和束など近隣の町とのコラボレーションが検討できる。 産物を発掘する気概が大切である。 			

提案 3	笠置町で売れる特産品づくり			
計画 期間	2 年後			
計画 目標	まちづくり会社が、特産品販売の収益で アルバイトを 1 人雇用している。			
現況 ・ 課題 資源 ・ 動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客が多数来町するが、売れるものがない状態である。 ・ 昨年度設立したまちづくり会社のキャッシュフロー確保のため、特産品開発を行いたい。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
半年後	特産品開発のための基礎調査が済んでいる。	わたし たち	観光客のニーズを把握する。	
		わたし たち	他都市の事例を調査し、特産品開発の知見を得る。	
1 年後	5 品の特産品を開発し、販売を開始している。	わたし たち	特産品の候補とする試作品を作成する。	
		事業者	試作品について、モニター販売を実施する。	
		わたし たち	モニター販売を踏まえて、特産品開発を完了、販売を開始する。	
2 年後	まちづくり会社が、特産品販売の収益でアルバイトを 1 人雇用している。	わたし たち	特産品をギフトショー等に出品し、さらなる販売拡大を図る。	収益目標は 10 万円/月程度。
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用対効果を考えることは大切である。 ・ 周辺地域の特産品を「見せ方」で扱うこともできる。 ・ 「弁当」など、予約制やすぐできるもので在庫を持たない工夫もできそう。 			

提案 4	インバウンド観光を呼び込もう！ ～ おもてなし力養成と滞在型観光の展開 ～			
計画 期間	1 年			
計画 目標	笠置の地域資源を生かしたツアー、ステイの商品化ができ、 旅行会社を通じて販売している。			
現況 ・課題 資源 ・動機	・ 笠置の魅力を生かす力をつくって、外国人観光客を呼び込みたい。			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
2 か月 後	インバウンド観光 戦略を考えるため、 仲間 3 人が集って いる。	わたし	笠置の魅力探訪とインバウンド観光検 討のグループワークを主催する。	活動費の確保
		役場	町の観光振興の取り組みの中に位置づ けて、支援する。	
6 か月 後	地域で、外国人に向 けた笠置の魅力の 発信の仕方を共有 している。	わたし たち	グループワークを通じて、地域魅力の 抽出と発信方針を検討する。	アクティビティ の専門家など
		わたし	専門家を招聘し、実践力アップに向け て学ぶ機会をつくる。	
		役場 等	ツアー、ステイの提供にむけて、活用 できる資源の調整を始める。	
1 年後	笠置の地域資源を 生かしたツアー、ス テイの商品化がで き、旅行会社を通じ て販売している。	わたし	ステイ提供者への、おもてなし講座、 ツアーガイド養成講座等を開催する。	グリーンツーリ ズム、ボルダリ ング体験、自転 車ツアー、田舎 ステイなど
		わたし たち	ツアー・ステイの商品を開発する。	
		旅行会社	商品開発を支援し、販売につなげる。	
PAC での 気づき	・ 「笠置山」「ボルダリング」「カヌー」「ホームビジット」「温泉」などそれぞ れの笠置の魅力を伝える講師の養成が検討できそう。 ・ 養成講座は大げさのようなので、研修くらいに言葉は選びたい。 ・ ホームビジットは、昼食時訪問などが想定できて、接遇その他をレクチャーでき る。			

提案 5	石フェス			
計画 期間	1年8か月後			
計画 目標	「 ^{いいいし} 1114の日」を含む土日2回の期間で 第1回石フェスを開催している。			
現況 ・課題 資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笠置山縁起の伝承から、笠置が「石とアートのまち」であることを訴求できる。 ・ 「笠置 ROCK!」に全国的な知名度がある。 ・ 温泉が活用できる。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
3か月 後	仲間5人が集い、石フェスの企画を始めている。	わたし	石フェスの企画のたたき台を起案し、仲間を募る。	
		役場	「1114の日」での石フェス開催を町政に位置づけ、支援する。	
8か月 後	「1114の日」に、次年度に向けた石フェスのプレ企画を試行している。	わたしたち	プレ企画としての石フェスを企画し、開催する。	
		ASB	アイデアと「パワー」を持ち寄り、企画する。	
		役場	地元人材・資源との間を取り持ち、一緒に取り組む。	
1年後	石フェスの企画が概ねまとまって、実行に向けて動き出している。	わたしたち	石フェスを企画し、アーティストなど各方面に打診して協力を取り付ける。	
		町民	作品の展示場所やアート・イン・レジデンスに場所を提供する。運営ボランティアに参加する。	
		役場	文化庁などに働きかけ、予算を確保する。	
1年8 か月後	「1114の日」を含む土日2回の期間で第1回石フェスを開催している。	わたしたち	メディアへのリリース等の広報を広く展開する。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ アートを起点にした徳島県神山町型の循環モデルの創造を期待したい。 ・ 石にはアーティストを惹き付ける求心力がある（笠置寺縁起、先住民文化、宇宙との更新） ・ 世界中で必要とされているのは、自然に対するリスペクトである。神の摂理を感じられる場所（雲海）もある。 ・ さらに温泉があることで、ホリスティックリゾートとしての可能性もある。 			

提案 6	笠置「心」アカデミー ～ 未来を担う子どもたちと親の心塾 ～			
計画 期間	平成 31 年度の夏休み			
計画 目標	小学生 200 人(または親子 100 組)がプログラムに参加している。			
現況 ・課題 資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、子供会は各小学校校区無数に存在するが、行事案は持っていない企画待ちが多い。 ・ NPO 地域予防推進協会教育事業部として、そこに対し、自然の中で心を育て、リーダーシップを養う教育を「心」プログラムとして提供したい。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
3 か月 後	平成 30 年度の夏休みに展開するプログラムの企画が概ねできている。	NPO	「心」プログラムに活用可能な地域の資源を把握し、事業を企画する。	心プログラム ・ 自然観察 ・ 情報教育 ・ 芸術教育 ・ 書道 ・ 華道 ・ 野外活動 ・ 座禅 ・ リーダー教育
		町民	笠置町の子ども「総参加」を促す。	
		役場	企画を周知し、教育委員会など関係機関に協力を求めて必要な調整を図る。	
平成 30 年度の 夏休み	小学生 100 人(または親子 50 組)がプログラムに参加している。	NPO	参加者を広く募集し、「心」プログラムを提供する。	
		町民	子ども同士の交流をサポートする。	
		役場	プログラム展開のフィールドとしての笠置町のプロモーションを展開する。	
平成 31 年度の 夏休み	小学生 200 人(または親子 100 組)がプログラムに参加している。	NPO	参加者をさらに広く募集し、「心」プログラムを提供する。	
		町民	プログラムを提供する仲間として、参加する。	
		役場	プログラム展開のフィールドとしての笠置町のプロモーションを展開する。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小林住職が、笠置の大きな資源であることが分かった。 ・ 「記憶」が大きなキーワードである。 			

提案 7	笠置の自然で葉っぱ事業 ～ 町民みんなで笑おう・楽しもう ～			
計画 期間	5 年			
計画 目標	町民 100 人が事業に参画している。 事業参画のために 10 人が移住してきている。			
現況 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県上勝町（人口約 1,700 人）では、この事業の先行事例であり、高齢の方々が楽しみながら葉っぱを摘み出荷されている。 			
資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> 同事業は、町おこしの主となっており、移住者が増える、会社を設立する若者が現れるといった効果も表れている。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取り組み		備考
1 年後	基本的なビジネスモデルが確立できている。	わたし	流通方法と販売先を確保する。	
		わたし	先行事例と町の地域特性を踏まえて、葉っぱ事業を試行する。	
		役場 等	事業モデルを周知・学習する機会をつくり、葉っぱを摘む人の確保を図る。	
3 年後	全国流通が確立し、町民 30 人が葉っぱ事業に参画している。	わたし	販売先・流通を拡大する。	町民と移住者の交流機会の充実を。
		役場	事業参画がしやすい仕組みを整備する。	
		役場 等	事業参画のための移住の受入体制を充実させる	
5 年後	町民 100 人が事業に参画している。事業参画のために 10 人が移住してきている。	わたし	事業拡大を図るとともに、その他生産物の生産指導を行う。	
		まちづくり会社	事業展開を踏まえて、新たな特産品を開発する。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> 老人会を含めて、町での発信をどうしていくかを話した。 以前に上勝町の映画を放映したとのことで、事業に対する町民認知が高く、始めやすいかもしれない。3 年前程から、葉っぱ事業がいいと声掛けされてる町民もおいでのようだ。 集荷場所の確保が必要。 （役場に対して）町有林の提供をしてもらえるとよい。上勝町への研修費の補助はできないか。 			

提案 8	折紙教室			
計画 期間	2 年			
計画 目標	「折紙講師」の有資格者が笠置町でそれぞれに活動を始めている。			
現況 ・課題 資源 ・動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「折紙」は、誰でも簡単に取組めて、子どもから大人までが楽しめて、やり甲斐も持てる。 ・ 「折紙」には、知能の発育促進や指先の運動などの医学的効果がある。 			
時点	節目目標 (マイルストーン)	取組み		備考
3 か月 後	生徒を 5 人確保し 教室を立ち上げて いる。	わたし	5 人の生徒を集める。	参加費
		役場	場所を提供し、資金調達に協力する。	
1 年後	生徒を 20 人確保す る。	わたし	「折り紙 Café」など、生徒層を広げる 活動を展開する。	和紙の調達など
		役場	保健・福祉に係る地域活動として位置 づけ、振興を図る。	
1 年半 後	「折紙講師」の有資 格者を 5 名養成す る。	わたし	資格を取るための指導をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉 + 折り紙 = 血行促進、認知症予防 ・ 子ども + 折り紙 = 脳の活性化 等
		わたしたち	有資格者それぞれの、特徴のある活動 を試行する。	
		役場	有資格者それぞれの活動の場の確保を 支援する。	
2 年後	「折紙講師」の有資 格者が笠置町でそ れぞれに活動を始 めている。	わたし	日本折紙協会笠置支部を立ち上げる。	
		わたしたち	有資格者それぞれの、特徴のある活動 をスタートする。	
PAC での 気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこいの館、お店等に関して、ご提供頂けそう。 ・ 「今すぐにできる」「誰でもできる」ことで、活動は広げられそう。 ・ 折紙を通じた婚活、といったアイデアも出てきた。 			

【提案内容について】

(全般)

- ・ 笠置の自然が持つ力は、フレーバー珈琲、石フェス、心の教育などいろんなことに利用できる。潜在力は高いので、活かさない手はない！
- ・ 笠置町には、宿があり温泉がある。巨石が大変多く、線彫りの石仏が素晴らしい（磐座の道ツアー）、笠置寺の正月堂で第1回目のお水取りが行われた。おいしいキジ料理がある。この当たりで一番の桜のドームがある。雲海サミットを決行したい。カヌー、ノルディック・ウォーキング、ボルダリングなど、「あるものばかり」だが、交通の便が悪い。
- ・ 笠置には自然の財源がたくさんあります。生かすも殺すも、関わる人・そこに住んでいる人次第！ お金を生む必要性に気づいてやり切ることが大切だと思います。
- ・ 笠置に残る美しい天女伝説を多くの人に知って頂きたい。自分も笠置山についてよく勉強する必要がある。
- ・ カヌーを広めてほしい。
- ・ ある素材（経済）を使う。
- ・ 今ある笠置を見直し、外に発信。見直すことで無理なく新しいものに生まれ変わるのでは！
- ・ 「京都笠置」など、町名も工夫してはどうか。
- ・ つながる時間が、もう少しあってもよいかも。
- ・ 一人ひとりの力が合わさって、実現の可能性が高まる。
- ・ 今回の提案をコントロールする会社の設立を希望する。ある場合は、人を雇用して実行体制を構築されたい。

(提案1：空き家)

- ・ 今まで提案が活かされないことが多かったが、今回のような催しは有効だとのこと。
- ・ 田舎ほどこの事業は難しい。移住してからのフォローが必要。

(提案2：フレーバー珈琲)

- ・ 笠置に来てお土産という？ 生姜、桜などのフレーバー珈琲を。

(提案3：特産品)

- ・ 笠置町としての特産品を考えていく。
- ・ 狭い範囲でなく、隣接地帯の物産も取り込んで、魅力ある定番みやげをつくり「京都笠置みやげ」と銘打っては。「京都笠置特産」等と嘘は使わない。「やわらか笠置ロック」は手焼きのやわらか煎餅。

(提案4：インバウンド観光)

- ・ 町外の観光客を呼び込むことが大切。

(提案5：石フェス)

- ・ 笠置には温泉がある、雲海がみられることでのホリスティックリゾートとしての可能性がある。
- ・ 1114、石の日の制定を！

(提案6：「心」アカデミー)

- ・ 授業の内容、出会う人。

(提案7：葉っぱ事業)

- ・ 葉っぱを集める人のやる気。

(提案8：折紙教室)

- ・ 食事処、喫茶店等での実施、折紙バー、折紙カフェ。
- ・ 子ども、高齢の人の認知症予防の折紙。笠置の成長に。

【感想など】

- ・ 明るい未来。参加して、笠置のことをこんなにも考えてもらっていることに感謝です。
- ・ これからの生きがいとなるような「ガンバリの提案」を頂きました。笠置町を知ってもらえるよう「努力」が大事！
- ・ やれることをやる！ お金儲けをする！ 金持ちになる夢を描く！
- ・ みなさん元気だ！ その元気があれば大丈夫！
- ・ どれも素晴らしいアイデアでした。
- ・ 笠置町が元気になれば、魅力あるまちになると思った。笠置町のいいところをもっとアピールしていければと思う。

